女子野球選手のスポーツキャリア形成

A study of the Sports Career Development of Women Baseball Players

1K07B200-5

指導教員 主査 間野 義之 先生

箕浦 奈緒

副査 武藤 泰明 先生

【研究背景】

現在、女子野球における学校別の部活やチーム数は軟式・硬式合わせて中学校 7 校・高校 11 校・大学 33 校しかなく、野球を続けていくことが困難な競技環境である。しかし 2010 年 4 月女子プロ野球リーグが開幕したことで、女子野球選手にとって野球選手としてのキャリアの頂点が出来た。

また、女子プロ野球では、セカンドキャリアサポートに力を入れている。他競技でも同様に JFL や NPB、JOC で選手の競技生活終了後のサポートの取り組みを行っている。セカンドキャリアに関する研究も多くなされている。キャリアに関しては、どのように競技を続けてきたか、または現在にどのように至ったかという競技者のキャリアをまとめたものもいくつか研究がなされてきた。特定の種目に注目した研究としては、スピードスケート選手、女子サッカー選手のキャリアの研究があるが女子野球に関する研究は見られない。

【研究目的】

本研究の目的は、女子野球選手のスポーツキャリアをまとめたうえで、限られた環境下でどのように競技力を向上していけるかについて示唆することである。

【研究方法】

日本女子野球協会に加盟しているクラブ 8 チームと全日本女子軟式野球連盟に加盟しているクラブ 2 チームの現役女子野球選手を対象に以下のような調査を 2010 年 10 月に実施した。調査方法としては、8 チームに訪問留置法、2 チームに郵送法で行った。

配布数 150 部に対し 150 部を回収し、回収率は 100% であった。また、小・中・高校のスポーツキャリアに関しての分析を行うため、高校生未満の選手の調査票は除外した。その結果、有効回答数は 107 部となり、有効回答率は 71.3% であった。

以上のような調査によって得られたデータを統計ソフト・SPSS を使用して分析した。

【研究結果】

女子野球選手のスポーツキャリアに関して、小学校年代に野球を始める選手が多いが、中学校年代で野球実施者は最も少ないことが分かった。また、中学校年

代・高校年代に競技開始者が少ないことも分かった。

また、日本代表経験者（競技力の高い選手）21 名と日本代表未経験者（その他の選手）86 名でいくつかの項目で比較した。その結果、競技力の高い選手とその他の選手との間では「中学校年代の競技実施」に有意差が見られた。

【考察】

女子野球選手のスポーツキャリアをまとめた結果、中学校年代と高校年代に競技を開始するために望ましくない状況であり、また一時的な離脱が起こりやすく他種目に参加しても再開しやすい状況であるといえる。

女子野球選手が競技力を上げるためには、中学校年代に野球を実施することが必要である。部活がないなどで野球を実施できない選手も多く、ソフトボールを実施する選手も多いが、それも野球に比較的スムーズに順応することができるため、そういった環境下で続けることもできる。

女子プロ野球リーグについて、競技レベル等の指摘もあるが、今後の女子プロ野球リーグの継続や競技力の向上が女子野球選手の目指す場所としての女子プロ野球の発展にも繋がるのではないかと考える。

【結論】

女子野球では中学校年代に野球を実施しているかどうか競技力に大きな影響を与えるのにもかかわらず、野球を実施する環境が整っていないこと、特に学校部活が不足していることが競技環境に影響を与えている。野球を続けていきたいと考える選手側と、それを受け入れていく受け手側の両者の歩み寄りにより女性が野球をしていくための環境を整えていけるのではないかと考える。

2010 年 4 月に開幕した女子プロ野球リーグは現在 1 年経って 2 チームでのリーグとなっているが、このリーグの今後の継続、発展により、これからの女子野球の競技環境に大きな影響を与えることになるかと考える。